



## 2018年12月期 第1四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

2018年5月11日

上場会社名 株式会社ジーエヌアイグループ

上場取引所 東

コード番号 2160 URL <http://www.gnipharma.com>

代表者 (役職名) 取締役代表執行役社長兼CEO (氏名) イン・ルオ

問合せ先責任者 (役職名) 取締役代表執行役CFO (氏名) トーマス・イーストリング (TEL) 03-6214-3600

四半期報告書提出予定日 2018年5月11日 配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無：無

四半期決算説明会開催の有無：有（アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

### 1. 2018年12月期第1四半期の連結業績（2018年1月1日～2018年3月31日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上収益		営業利益		税引前利益		四半期利益		親会社の所有者に帰属する四半期利益		四半期包括利益合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2018年12月期第1四半期	1,012	189.1	106	-	△222	-	△260	-	△339	-	△375	-
2017年12月期第1四半期	350	13.0	△76	-	△149	-	△174	-	△177	-	△187	-

	基本的1株当たり 四半期利益	希薄化後1株当たり 四半期利益
	円 銭	円 銭
2018年12月期第1四半期	△2.52	-
2017年12月期第1四半期	△1.55	-

（2）連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率	1株当たり親会社 所有者帰属持分
	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
2018年12月期第1四半期	15,561	13,122	11,005	70.7	81.64
2017年12月期	15,879	13,481	11,718	73.8	86.97

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2017年12月期	-	-	-	0.00	0.00
2018年12月期	-	-	-	-	-
2018年12月期（予想）	-	-	-	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2018年12月期の連結業績予想（2018年1月1日～2018年12月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上収益		営業利益		税引前利益		当期利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,960	87.3	659	327.7	651	374.9	482	-	0	-	0.00

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）除外 一社（社名）

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2018年12月期1Q	134,800,831株	2017年12月期	134,744,831株
② 期末自己株式数	2018年12月期1Q	3,754株	2017年12月期	3,754株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2018年12月期1Q	134,785,521株	2017年12月期1Q	114,101,921株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

また、当社は、2018年5月17日に、アナリスト向けの四半期説明会を開催する予定です。その説明会資料は、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績・財政状態に関する分析 .....	2
(1) 経営成績に関する分析 .....	2
(2) 財政状態に関する分析 .....	3
(3) 研究開発活動 .....	4
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明.....	5
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	6
(1) 要約四半期連結財政状態計算書 .....	6
(2) 要約四半期連結損益計算書書及び要約四半期連結包括利益計算書 .....	7
要約四半期連結損益計算書書 .....	7
要約四半期連結包括利益計算書 .....	8
(3) 要約四半期連結持分変動計算書 .....	9
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	11
(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	12
(継続企業の前提に関する注記) .....	12
(会計方針の変更) .....	12
(セグメント情報) .....	13
(重要な後発事象) .....	16

## 1. 経営成績・財政状態に関する分析

## 会社概要

日本に本拠地を置く当社は、中国及び米国に子会社を保有し、医薬品と医療機器を主な事業分野とするグローバル製薬企業です。

当第1四半期連結累計期間において、当社グループは、医薬品と医療機器という2つの事業分野における好調な業績を受け、前連結会計年度から引き続き、売上収益及び営業利益の増加傾向を維持しました。また、当第1四半期連結累計期間の主要な進捗の一つである、当社米国子会社GNI USA, Inc. (GNI USA)による孫会社Cullgen Inc. (Cullgen)の設立により、当社グループは新薬開発に対するコミットメントを新たにしました。Cullgenは、先進的なユビキチン化を介した低分子誘導たんぱく質分解技術に焦点を当てたバイオベンチャー企業です。このCullgenへの投資により、当社グループは、最先端技術を活用した将来の開発パイプラインの拡充を目指します。

当第1四半期連結累計期間の経営成績、財政状態、キャッシュ・フロー及び研究開発活動は以下のとおりです。

## (1) 経営成績に関する分析

## 当第1四半期連結累計期間の経営成績

## 連結経営成績概要

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間	当第1四半期連結累計期間	差額
売上収益	350,208	1,012,347	662,139
売上総利益	286,424	871,786	585,361
営業利益（△損失）	△76,115	106,128	182,243
四半期利益（△損失）	△174,147	△260,130	△85,982

## 売上収益及び売上総利益

当第1四半期連結累計期間において、売上収益は前年同期比約189.1%増加の1,012,347千円となりました。利益率は改善し、当第1四半期連結累計期間の売上総利益は、前年同期比約204.4%増加の871,786千円となりました。この増加は、北京コンチネント薬業有限公司（北京コンチネント）の売上が増加したことと、Berkeley Advanced Biomaterials LLC (BAB) の業績を取り込んだことによるものです。

## 営業利益（損失）

当第1四半期連結累計期間の営業利益は、前第1四半期連結累計期間の76,115千円の損失と比べ、182,243千円改善し、106,128千円の利益となりました。当社グループの両事業部門ともに、当第1四半期連結累計期間における利益率と収益性の向上に大きく貢献しました。

## 四半期利益（損失）

当第1四半期連結累計期間の四半期利益は、260,130千円の損失となりました。これは、主として、後述の金融費用について説明しておりますとおり、当第1四半期連結累計期間において、急激な円高により為替差損が発生したためです。

## 販売費及び一般管理費並びに研究開発費

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間	当第1四半期連結累計期間	差額
販売費及び一般管理費	△304,081	△667,072	△362,991
人件費	△116,631	△333,939	△217,308
研究開発費	△56,169	△90,752	△34,583

当第1四半期連結累計期間の販売費及び一般管理費は、前第1四半期連結累計期間に比べ362,991千円増加し、667,072千円となりました。これは、主に、アイスーリュイの販売関連費用に加え、BAB及びCullgenの費用を取りこ

んだことによるものです。研究開発費が前年同期に比べ増加したのは、主として、2018年に開始される予定のF351及びアイスーリュイの追加適応症に関する臨床試験によるものです。

## 金融収益及び金融費用

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間	当第1四半期連結累計期間	差額
金融収益	4,805	6,815	2,010
金融費用	△64,485	△335,913	△271,427

## 金融収益

当第1四半期連結累計期間の金融収益は、前第1四半期連結累計期間の4,805千円と比べて、2,010千円増加し、6,815千円となりました。

## 金融費用

当第1四半期連結累計期間の金融費用は、前第1四半期連結累計期間の64,485千円と比べて、271,427千円増加し、335,913千円となりました。この増加は、主として、円高により発生した現金支出を伴わない為替差損によるもので、外貨建ての資産及び負債の評価替えにより生じた正味の為替差損は、当第1四半期連結累計期間において327,287千円となりました。

## (2) 財政状態に関する分析

## 連結財政状態

(単位：千円)

	前連結会計年度	当第1四半期連結会計期間	差額
資産合計	15,879,339	15,561,714	△317,624
負債合計	2,397,474	2,439,019	41,544
資本合計	13,481,864	13,122,695	△359,169

## 資産合計

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べて317,624千円減少し、15,561,714千円となりました。これは、主として、当第1四半期連結会計期間において非流動資産が減少したことによるものです。

## 負債合計

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて41,544千円増加し、2,439,019千円となりました。

## 資本合計

当第1四半期連結会計期間末における資本合計は、前連結会計年度末に比べて359,169千円減少し、13,122,695千円となりました。これは、主として、当第1四半期連結会計期間において、利益剰余金が減少したことによるものです。

## 連結キャッシュ・フロー

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間	当第1四半期連結累計期間	差額
営業活動によるキャッシュ・フロー	△38,247	294,587	332,834
投資活動によるキャッシュ・フロー	△232,077	△161,674	70,403
財務活動によるキャッシュ・フロー	141,448	△68,323	△209,771

## 営業活動によるキャッシュ・フロー

当第1四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローの収入は、前第1四半期連結累計期間の38,247千円の支出と比べて332,834千円増加し、294,587千円となりました。主な収入は、営業債権及びその他の債権の減少による資金の増加127,983千円並びに営業債務及びその他の債務の増加による資金の増加132,451千円であります。

## 投資活動によるキャッシュ・フロー

当第1四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローの支出は、前第1四半期連結累計期間の232,077千円の支出と比べて70,403千円減少し、161,674千円となりました。主な支出は、有形固定資産の取得による支出の162,168千円であります。

## 財務活動によるキャッシュ・フロー

当第1四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローの支出は、前第1四半期連結累計期間の141,448千円の収入と比べて209,771千円増加し、68,323千円となりました。主な支出は、長期借入金の返済による支出の377,785千円であります。

## (3) 研究開発活動

## 〔新薬開発〕

Cullgenは、先進的なユビキチン化を介したタンパク質分解技術に基づく、新しい創薬基盤の構築を目的として設立されました。その試みのため、当社グループは、ユビキチン分野の優れた専門家であるノースカロライナ大学生化学・生物物理学ウィリアム・R・ケナン講座教授のYue Xiong博士と、マウント・サイナイ医科大学薬理科学教授のJian Jin博士を共同創業者に迎えました。

先進的なユビキチン化を介したタンパク質分解技術は、標的タンパク質が原因となる疾患治療における低分子化合物医薬品の開発の新戦略として位置づけられます。Cullgenは、不要であったり、破損したりしているタンパク質を分解・破壊するユビキチン・プロテオソーム系の機能を利用した新薬開発を目指しております。Cullgenが追及する技術においては、E3リガーゼを介した特定のタンパク質が分解の標的にされています。E3リガーゼは、標的タンパク質、その他タンパク質及びユビキチンと複合体を構成し、その後ユビキチンが標的タンパク質をプロテオソームに誘導し、分解に導きます。疾患に関連する既知のタンパク質をユビキチンと共に標的にすることで、細胞自身の処理機能をその疾患との戦いに利用します。低分子化合物である酵素阻害剤は、酵素の活性部位に正確に適合しなければ機能しない上、その後、耐性が生じる可能性もありますが、それとは異なり、E3リガーゼを活用したユビキチン・プロテオソーム系を基礎とするシステムは、標的タンパク質の特定部位に適合する必要はなく、従って、従来、創薬ターゲットにできなかった酵素やタンパク質を含めたより広範なタンパク質に適用することができます。

Cullgenの研究プログラムは、がん、炎症性疾患及び自己免疫疾患に対する新しい治療法の開発に焦点を当てています。研究開発とヘルスケア分野のグローバル化進展に伴い、Cullgenは、米国、日本及び中国において創薬及び関連分野の事業開発を開始し、強固で協調的かつ生産性の高い創薬基盤の構築を進めていく予定です。

## 〔臨床試験〕

## ■アイスーリュイ〔中国語：艾思瑞®、英語：Etuary®（一般名：ピルフェニドン）〕

## 放射線性肺炎（RP）

当社グループは、アイスーリュイの2番目の適応症として、RP治療薬の第3相臨床試験前パイロット試験を実施しております。これは、反復投与、多施設でのオープン試験を行うもので、2018年3月末現在、10の施設で11人の被験者登録が行われています。被験者登録は、2019年の年末までに終了する見込みです。

## 糖尿病腎症（DN）

DNは、I型糖尿病又はII型糖尿病により引き起こされる慢性腎臓病です。統計によれば、中国では、糖尿病の有病者が9,240万人に達すると報告されており、I型又はII型糖尿病患者の20～30%が腎疾患を引き起こすとされています。2016年8月、当社グループは、中国国家食品薬品監督管理総局（CFDA）より、DN治療薬の治験許可（IND）申請に対する承認を取得し、DNに関し第2相臨床試験を直ちに開始することが認められましたが、第2相臨床試験の開始は、2018年の第2又は第3四半期を見込んでおります。

#### 結合組織疾患を伴う間質性肺疾患(CTD-ILD)

CTD-ILDとは、結合組織疾患(CTD)を持つ患者様の肺が、炎症及び線維症、又はいずれか一方の症状を引き起こす状態のことを指しますが、2016年9月、当社グループは、アイスーリュイの4番目の適応症としてのCTD-ILD治療薬のIND申請に対する承認をCFDAより取得しました。同承認により、当社グループは、CTD-ILDの2つの適応症である全身性強皮症(強皮症)及び皮膚筋炎(DM)に関し、第3相臨床試験を直ちに開始することが認められました。第3相臨床試験については、当局との微調整のため一時的に中断しておりますが、2018年第2四半期には、当該試験が再開される見込みです。被験者登録の終了は2019年の年末までを見込んでおります。

#### ■F351(肝線維症等治療薬)

F351(一般名:ヒドロニドン)は、当社グループのパイプラインの中でも重要な創薬候補化合物で、臨床開発活動を世界の主要医薬品市場で展開する当社戦略に必要不可欠なものです。F351は、アイスーリュイの誘導体である新規開発化合物であり、内臓の線維化に重要な役割を果たす肝星細胞の増殖及びTGF- $\beta$ 伝達経路の両方の阻害剤です。当社グループは中国、日本、豪州、カナダ、米国、欧州各国を含む主要な国でのF351の特許権を保有しております。

中国 - 当社グループは、中国において、F351の肝線維症治療薬としての第2相臨床試験を行っておりますが、これは、慢性B型肝炎ウイルス感染による肝線維症の治療におけるF351の安全性及び有効性を検証するもので、中国全土のクラスAAAの13の病院が参加し、最大240人の被験者に対して、無作為、二重盲検、プラセボ・コントロール、反復投与、多施設での試験を行うものです。2018年3月末日現在、複数の施設で、161人の被験者登録が行われています。当第2相臨床試験に関して、独立データモニタリング委員会による中間解析が行われる予定で、中間解析結果を以て第3相臨床試験に進むかどうか判断される見込みです。

米国 - 2017年9月29日、当社の100%子会社であるGNI USAが、肝線維症治療薬としてのF351の米国におけるIND申請に対して、米国食品医薬品局(FDA)より、第1相臨床試験開始の承認を取得いたしました。当社の完全子会社であるGNI USAは、2018年第2四半期に、F351の安全性、忍容性及び薬物動態を判定するため、米国において、オープン試験で、単回投与及び反復投与の第1相臨床試験を実施する予定です。

#### ■タミバロテン(急性前骨髄球性白血病(APL)治療薬)

タミバロテンは、APL治療薬です。APLは、急性骨髄白血病の一種で、前骨髄球が「がん化」する白血病です。東光薬品工業株式会社と当社子会社のGNI-EPS(HONG KONG)HOLDINGS LIMITEDは、2015年10月に、アムノレイク®錠2mg(一般名:タミバロテン)を、輸入薬としてCFDAに登録申請を行い、その後、CFDAによるGCP査察が実施されました。

#### ■F573(急性肝不全・慢性肝不全急性化(ACLF)治療薬)

ACLF治療薬F573は、アイスーリュイ及びF351に続く3つ目の新規開発化合物で、当社グループは、2011年7月にCFDAにIND申請を提出しております。F573は、ジペプチド化合物で、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、アルコール性肝硬変に起因する重症肝炎と関連した、細胞死や炎症反応をもたらす酵素の一種であるカスパーゼを阻害する可能性を持つものです。F573は、米国企業EpiCept Corporation(現Immune Pharmaceuticals, Inc.)からライセンス供与を受けたものであり、当社グループは、アジアにおいて、中国、日本、豪州及びニュージーランド他の権利を保有し、更には、その他の地域の権利も取得できる優先権も保有しております。当第1四半期連結累計期間末において、F573のIND申請に対しては、第1相臨床試験開始に関するCFDAの承認待ちの状況です。

#### ■その他

以上のパイプラインの他、2015年12月には、当社の連結子会社である北京コンチネントが、酪酸ヒドロコルチゾンの温度により制御されるフォーム製剤(外用薬)のIND申請書を北京市食品薬品监督管理局(北京FDA)に提出し、受理されております。当フォーム製剤は、湿疹、乾癬、接触性皮膚炎等の外用薬として、北京コンチネントとGENEPHARM Biotech Corp.(台湾企業)により共同開発されたものです。当初提出したフォーム製剤に関するIND申請に一部データが不足していたため、北京コンチネントは、再提出に向けた当該データの準備を行っております。

#### (4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2018年2月13日の「2017年12月期 決算短信〔IFRS〕(連結)」で公表した予想から変更ありません。

## 2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2017年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年3月31日)
<b>資産</b>		
非流動資産		
有形固定資産	1,460,823	1,549,670
のれん	5,159,618	4,979,738
その他の無形資産	1,887,352	1,761,801
繰延税金資産	16,144	22,588
その他の金融資産	382,460	382,241
その他の非流動資産	421,410	410,747
非流動資産 合計	9,327,809	9,106,787
流動資産		
棚卸資産	637,687	655,645
営業債権及びその他の債権	736,974	589,893
その他の金融資産	899,641	880,545
その他の流動資産	84,476	111,038
現金及び現金同等物	4,192,749	4,217,803
流動資産 合計	6,551,529	6,454,927
資産 合計	15,879,339	15,561,714
<b>負債及び資本</b>		
非流動負債		
借入金	479,418	670,805
繰延税金負債	392,657	367,528
その他の非流動負債	38,140	37,940
非流動負債 合計	910,216	1,076,274
流動負債		
営業債務及びその他の債務	142,091	269,266
借入金	842,943	536,980
未払法人所得税	92,603	85,401
その他の流動負債	409,620	471,095
流動負債 合計	1,487,258	1,362,745
負債 合計	2,397,474	2,439,019
<b>資本</b>		
資本金	10,267,609	10,281,001
資本剰余金	9,850,503	9,508,783
自己株式	△325	△325
利益剰余金	△8,525,835	△8,865,493
その他の資本の構成要素	126,802	81,093
親会社の所有者に帰属する部分合計	11,718,754	11,005,059
非支配持分	1,763,109	2,117,635
資本 合計	13,481,864	13,122,695
資本及び負債の合計	15,879,339	15,561,714



## (2) 要約四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 要約四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年1月1日 至 2017年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年3月31日)
売上収益	350,208	1,012,347
売上原価	△63,784	△140,561
売上総利益	286,424	871,786
販売費及び一般管理費	△304,081	△667,072
研究開発費	△56,169	△90,752
その他の収益	3,088	4,432
その他の費用	△5,377	△12,265
営業利益(△損失)	△76,115	106,128
金融収益	4,805	6,815
金融費用	△64,485	△335,913
持分法による投資利益(△損失)	△13,856	—
税引前四半期利益(△損失)	△149,652	△222,969
法人所得税費用	△24,495	△37,160
四半期利益(△損失)	△174,147	△260,130
四半期利益(△損失)の帰属		
親会社の所有者	△177,065	△339,658
非支配持分	2,917	79,527
1株当たり四半期利益(△損失)		
基本的1株当たり四半期利益(円)	△1.55	△2.52
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	—	—

## 要約四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年1月1日 至 2017年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年3月31日)
四半期利益(△損失)	△174,147	△260,130
その他の包括利益		
純損益にその後に振替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	△13,448	△115,307
その他の包括利益合計	△13,448	△115,307
四半期包括利益合計	△187,595	△375,438
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	△140,213	△377,429
非支配持分	△47,382	1,990

## (3) 要約四半期連結持分変動計算書

前第1四半期連結累計期間(自2017年1月1日至2017年3月31日)

(単位:千円)

	親会社の所有者に帰属する部分						
	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の資本の構成要素		
					新株予約権	在外営業活動体の換算差額	合計
2017年1月1日残高	5,840,152	5,704,300	△253	△8,350,628	86,895	△19,416	67,478
四半期利益(△損失)	—	—	—	△177,065	—	—	—
その他の包括利益	—	—	—	—	—	36,851	36,851
四半期包括利益合計	—	—	—	△177,065	—	36,851	36,851
非支配持分の取得	—	△68,609	—	—	—	△11	△11
支配継続子会社に対する持分の変動	—	△27,176	—	—	—	2,441	2,441
新株の発行	20,313	20,313	—	—	△16,799	—	△16,799
所有者との取引額合計	20,313	△75,472	—	—	△16,799	2,429	△14,369
2017年3月31日残高	5,860,465	5,628,827	△253	△8,527,693	70,096	19,863	89,960

	親会社の所有者に帰属する部分		
	合計	非支配持分	資本合計
2017年1月1日残高	3,261,049	1,272,020	4,533,069
四半期利益(△損失)	△177,065	2,917	△174,147
その他の包括利益	36,851	△50,299	△13,448
四半期包括利益合計	△140,213	△47,382	△187,595
非支配持分の取得	△68,621	△94,278	△162,900
支配継続子会社に対する持分の変動	△24,735	24,735	—
新株の発行	23,828	—	23,828
所有者との取引額合計	△69,528	△69,543	△139,072
2017年3月31日残高	3,051,306	1,155,094	4,206,401

当第1四半期連結累計期間(自2018年1月1日至2018年3月31日)

(単位:千円)

	親会社の所有者に帰属する部分						
	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の資本の構成要素		
					新株予約権	在外営業活動体の換算差額	合計
2018年1月1日残高	10,267,609	9,850,503	△325	△8,525,835	55,846	70,956	126,802
四半期利益(△損失)	—	—	—	△339,658	—	—	—
その他の包括利益	—	—	—	—	—	△37,770	△37,770
四半期包括利益合計	—	—	—	△339,658	—	△37,770	△37,770
支配継続子会社に対する持分の変動	—	△355,112	—	—	—	—	—
新株の発行	13,392	13,392	—	—	△7,893	—	△7,893
新株予約権の戻入	—	—	—	—	△45	—	△45
所有者との取引額合計	13,392	△341,720	—	—	△7,938	—	△7,938
2018年3月31日残高	10,281,001	9,508,783	△325	△8,865,493	47,907	33,185	81,093

	親会社の所有者に帰属する部分		
	合計	非支配持分	資本合計
2018年1月1日残高	11,718,754	1,763,109	13,481,864
四半期利益(△損失)	△339,658	79,527	△260,130
その他の包括利益	△37,770	△77,537	△115,307
四半期包括利益合計	△377,429	1,990	△375,438
支配継続子会社に対する持分の変動	△355,112	352,535	△2,576
新株の発行	18,892	—	18,892
新株予約権の戻入	△45	—	△45
所有者との取引額合計	△336,266	352,535	16,269
2018年3月31日残高	11,005,059	2,117,635	13,122,695

## (4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年1月1日 至 2017年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益(△損失)	△149,652	△222,969
減価償却費	12,207	36,682
営業債権及びその他の債権の増減額	△25,809	127,983
営業債務及びその他の債務の増減額	24,902	132,451
棚卸資産の増減額	968	△45,376
金融収益及び金融費用	42,882	286,940
持分法による投資損失	13,856	—
その他	78,606	30,693
小計	△2,038	346,404
利息の受取額	1,114	4,172
利息の支払額	△12,745	△9,629
法人所得税の支払額	△24,579	△46,360
営業活動による正味キャッシュ・フロー	△38,247	294,587
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△137,161	—
有形固定資産の取得による支出	△13,734	△162,168
無形資産の取得による支出	△2,887	△1,300
長期前払費用の取得による支出	△79,920	—
差入保証金・敷金の増加による支出	△69	—
差入保証金・敷金の減少による収入	—	109
貸付金の回収による収入	1,696	1,685
投資活動による正味キャッシュ・フロー	△232,077	△161,674
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金増減額	149,967	85,475
長期借入金の返済による支出	△1,547	△377,785
長期借入による収入	132,100	205,140
新株予約権の行使による株式の発行による収入	23,828	18,846
連結の範囲の変更を伴わない非支配持分の取得による支出	△162,900	—
財務活動による正味キャッシュ・フロー	141,448	△68,323
現金及び現金同等物に係る換算差額	△24,310	△39,535
現金及び現金同等物の増減額	△153,187	25,054
現金及び現金同等物の期首残高	2,599,131	4,192,749
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,445,944	4,217,803

(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

当社グループは、当第1四半期連結累計期間より、IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」を適用しております。IFRS第15号の適用にあたっては、経過措置として認められている本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。

IFRS第15号に従い、以下の5つのステップアプローチに基づき、収益を認識しております。

- ステップ1：顧客との契約を識別する
- ステップ2：契約における履行義務を識別する
- ステップ3：取引価格を算定する
- ステップ4：取引価格を契約における履行義務に配分する
- ステップ5：企業の履行義務の充足時に収益を認識する

当社グループは医薬品及び医療機器の販売を行っております。このような販売については、顧客への製品を引き渡した時点で、製品への支配が顧客に移転し、一時点で履行義務が充足されることから、当該時点で収益を認識しております。

製品の販売から生じる収益は、販売契約における対価から販売数量や販売金額に基づくリベートや値引きなどを控除した金額で算定しております。

製品の販売契約における対価は、顧客へ製品を引き渡した時点から主として1年以内に受領しております。なお、重大な金融要素は含んでおりません。

上記5つのステップアプローチに基づき、顧客との契約における履行義務の識別を行った結果、従前の会計基準を適用した場合と比較して、当第1四半期連結累計期間の連結損益計算書において、売上収益、売上原価、営業利益及び四半期利益に与える影響はありません。

## (セグメント情報)

## (1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち、分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、前連結会計年度におけるBABの買収により、従来の創薬及び製造販売事業である医薬品事業に加えて、医療機器事業も展開することになりました。医薬品事業では、医薬品の研究開発、製造、販売及び受託研究などを行っており、医療機器事業では、生体材料を含む医療機器の研究開発、製造及び販売を行っております。

また、医療機器事業を当社グループの事業に加えたことにより、グループの資源配分や業績評価などの管理手法の変更を行うとともに、前連結会計年度において、各地域を一体として経営判断を行うため、当社グループの報告セグメントの見直しを行っております。この結果、報告セグメントを従来の地域別での「日本」、「中国」及び「米国」の3区分から、事業別による「医薬品事業」及び「医療機器事業」の2区分に変更しております。

上記のように決定された各報告セグメントの主要製品は以下のとおりであります。

報告セグメント	会社名	主要製品
医薬品事業	株式会社ジーエヌアイグループ、北京コンチネント薬業有限公司、上海ジェノミクス有限公司、GNI-EPS (HONG KONG) HOLDINGS LIMITED、GNI-EPS Pharmaceuticals, Inc.、上海ジェノミクステクノロジー有限公司、Shanghai GEP Pharmaceuticals, Inc.、GNI USA, Inc.、Cullgen Inc.	アイスーリュイ、医薬品開発、その他医薬品、試薬
医療機器事業	Berkeley Advanced Biomaterials LLC	生体材料

## (2) 報告セグメントの売上収益及び損益

当社グループの報告セグメント情報は以下のとおりです。各報告セグメントの会計方針は、(会計方針の変更)に記載のとおり、当第1四半期連結累計期間よりIFRS第15号を適用しております。

前第1四半期連結累計期間(自 2017年1月1日 至 2017年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	連結
	医薬品事業	医療機器事業	合計		
売上収益					
(1) 外部顧客への売上収益	350,208	—	350,208	—	350,208
(2) セグメント間の内部売上収益又は振替高	41,087	—	41,087	△41,087	—
計	391,296	—	391,296	△41,087	350,208
セグメント利益(△損失)	△75,366	—	△75,366	△749	△76,115
				金融収益	4,805
				金融費用	△64,485
				持分法による投資利益(△損失)	△13,856
				税引前四半期利益(△損失)	△149,652

- (注) 1 セグメント間の内部売上収益又は振替高は、独立企業間価格に基づいております。
- 2 前連結会計年度において報告セグメントを変更したため、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報を修正再表示しております。
- 3 売上収益の調整額は、セグメント間の内部売上収益であります。また、セグメント利益(△損失)の調整額は、セグメント間の内部利益消去額であります。
- 4 セグメント利益(△損失)は、要約四半期連結損益計算書の営業利益(△損失)を用いております。



当第1四半期連結累計期間(自 2018年1月1日 至 2018年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	連結
	医薬品事業	医療機器事業	合計		
売上収益					
(1) 外部顧客への 売上収益	573,346	439,001	1,012,347	—	1,012,347
(2) セグメント間 の内部売上収 益又は振替高	3,728	—	3,728	△3,728	—
計	577,074	439,001	1,016,076	△3,728	1,012,347
セグメント利益 (△損失)	△21,094	133,054	111,960	△5,831	106,128
				金融収益	6,815
				金融費用	△335,913
				税引前四半期利益(△損失)	△222,969

- (注) 1 セグメント間の内部売上収益又は振替高は、独立企業間価格に基づいております。
- 2 売上収益の調整額は、セグメント間の内部売上収益であります。また、セグメント利益(△損失)の調整額は、セグメント間の内部利益消去額であります。
- 3 セグメント利益(△損失)は、要約四半期連結損益計算書の営業利益(△損失)を用いております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。